令和２年度　徳島県立池田高等学校　定時制　学校評価総括表　1

「評価」及び「総合評価の評定」の基準　A：十分達成できた　　B：概ね達成できた　　C：達成できなかった

自己評価												学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		重点課題			２年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況	評価		総合評価		学校関係者の意見	
1	生徒一人一人のニーズや能力・適性に応じたきめ細やかな教育と支援を行う。	①	より質の高い授業の実施	i	可動式電子黒板等のICT機器を積極的かつ効果的に活用するとともに，生徒の発言や発表の機会を増やすこと等により，より体験的で対話的な授業を目指す。	・可動式電子黒板等のＩＣＴ機器を活用した各教科の授業実施割合　60％以上 ・授業における可動式電子黒板等のＩＣＴ機器の平均活用時間　20分以上	ICT活用状況調査の結果，授業におけるICT活用割合は81％であり，一回の授業での電子黒板の平均活用時間も27.5分であり，ICTの活用が進んだ。	B	B	B		(評議)映像や音声もあるので興味も持ち記憶に残りやすい。	全生徒タブレット導入に対応したICT活用を検討する。
				ii	学期毎に授業参観週間を実施し相互参観する。また，全日制の授業や他校で行われている公開授業等にも参加し授業改善や教科指導力の向上に努める。	・授業改善研修　年３回実施 ・相互授業参観　毎回２回以上	授業改善研修を年２回実施した。 ほとんどの教員が相互授業参観を各回２回という目標を達成した。	B		①については，授業の相互参観や「進化する教室イノベーション事業」等の成果もあって，特にICT活用や参加型の授業展開において教員のスキルが向上した。授業公開週間の相互参観については担当教科の参観ができるということで，全日制へ授業参観の協力依頼をし，マンネリ化解消に努めた。 ②について，取組真剣度も良好な値をキープして全体的には評価指標をほぼ達成しており，一定の成果が見える。全員が意欲を持って学習に取り組むために，個人別の学習目標を設定し，個別指導を充実させた。 ③については年間5冊以上の本を読んだ生徒の割合が減少しており，今回も課題が残った。長期休業等に本を読むきっかけを与えるために，読書室に生徒が読みたい図書を充実させたい。 ④については自尊感情や道徳的行動に関するアンケートの導入で生徒理解に活用でき，充実した教育活動が展開できた。継続して実施し，来年度も生徒理解や適切な支援に活かす。		相互参観については活発に行われるよう工夫が必要である。
				iii	各学期末に生徒による授業評価を実施し，生徒の実態を的確に把握することで学習指導方法の工夫・改善につなげる。	・生徒による授業評価　年間２回実施 ・生徒の授業満足度80%以上　・生徒の授業理解度70%以上 ・生徒の授業取組真剣度80%以上	生徒による授業評価を年間２回実施し，生徒の授業満足度は75%，生徒の授業理解度は70%であった。生徒の授業取組真剣度は80%であった。概ね目標は達成したものの，昨年と比べて，授業改善の取組により授業満足度，授業理解度，授業取組真剣度ともに減少した。	B				(評議)個別指導が実を結んでいる。 (保)積極的に登校するようになった。	生徒の実態に合わせた学習指導法の工夫・改善を図りながら授業の質の向上に繋げる。
		②	漢字・計算等の基礎学力の向上	i	国語の授業で毎時間10分程度，個々のレベルに合わせた漢字課題に取り組む時間を設定するとともに，課題をふまえた校内漢字テストを年４回実施し，基礎学力の定着を図る。また，漢字検定を全員年１回受検させ，目標に向かって努力し，達成感を得る機会とする。	・漢字課題の提出率90％以上 ・漢字テスト　年間４回実施　　・生徒の取組真剣度80％以上 ・漢字検定　年１回以上全員受験　・漢字検定合格率　20％以上	漢字課題の提出率は100％で，個々のレベルに合わせた学習を継続的に実施できた。漢字テストを年４回実施し，生徒の取組真剣度は90％であった。漢字検定は年1回全員受検を実施した（結果は３月の予定）。また，希望により年２回受検した生徒が3名おり，サポートを行った。	B	B				今後も個々の実態に応じた学習を継続的に実施する。また，漢字検定の複数回受検を希望する生徒へのサポートを充実さ
				ii	生徒の習熟度に合わせて課題を設定し，計算力向上講座を年間４回実施する。課題の指導には教員全員であたり，講座と連動した計算テストを実施し，基礎学力の定着を図る。	・計算力向上講座　年間４回実施 ・生徒の講座に対する満足度85%以上　・計算テスト　年間４回実施 ・生徒の取組真剣度90%以上　・計算テストの年間平均点60点以上	講座を年間４回実施し，生徒の講座に対する満足度は90%であった。計算テストを年間４回実施し，生徒の取組真剣度は90%であった。計算テストの年間平均点は53.8点であった。	B					今後も生徒個々の実態に応じた課題を継続的に実施する。
		③	本に親しむ態度の育成と読書習慣の確立	i	毎週月曜から木曜に１５分間の読書の時間を設定し，集中して読書する時間を確保することで，読書に親しむ機会を設ける。また，長期休業を活用し，読書の習慣を身に付けさせる。	・年間５冊以上の本を読んだ生徒の割合30％以上 ・全日制図書館と定時制読書室の貸し出し冊数　年間５冊以上	読書の時間は確保したが，年間５冊以上の本を読んだ生徒の割合は25％であった。年間貸し出し冊数は，全日制図書館5冊，定時制読書室2冊の計７冊だった。	B	B				長期休業等を活用して読書の習慣を身に付けさせたり，読書室の図書を充実させ
				ii	定時制読書室の蔵書充実を図るとともに，全日制図書室の利用や，授業での本の紹介・本を活用した指導により，生徒が本に触れる機会を設け，読書への興味関心を育む。	・授業やホームルーム活動での全日制図書館年間利用回数　年３回以上 ・授業での本の紹介や本を活用した指導　　年５回以上	全日制図書館は年2回利用した。授業で本の紹介や本を活用した指導回数は年5回だった。	B					授業で図書館や本をさらに活用し，生徒が本に触れる機会を
		④	豊かな情操と人権感覚や道徳心の育成	i	協力的・参加的・体験的な学習を取り入れた人権学習ホームルーム活動を実施し，自他の人権を守ろうとする意欲や態度，行動力を育てるとともに，教員研修を充実させ，教員の人権意識の高揚と指導力の向上を図る。 また，「池定人権新聞」を発行し，保護者が本校の人権教育活動への理解を深められるよう努める。	・協力的・参加的・体験的な学習を取り入れた人権学習ホームルーム活動　年４回実施 ・外部講師による講演会　年１回実施 ・生徒アンケート「人権問題解決への意欲が高まった」肯定的回答割合　80％以上 ・人権教育に関する教員研修　年７回以上実施 ・「池定人権新聞」の発行　毎学期１回	講義やペア活動が主となったが，ホワイトボードやICTを活用し，人権学習ホームルーム活動を年３回実施した。人権問題について「知識が深まった」95％，「興味・関心が深まった」90％，「解決への意欲が高まった」90％であり，いずれも昨年より向上した。また，外部講師による講演会を年１回，人権教育に関する教員研修を年7回実施した。「池定人権新聞」は毎学期１回発行し，学習内容や生徒の様子を保護者に紹介した。	B	B				人権問題を自身にかかわる問題と捉え，知識や意欲が実践につながるよう，より生徒の実態や課題に応じた人権学習を実施する。
				ii	生徒の些細な変化について注意深く観察し，全教員での情報の共有を徹底するとともに，学期毎に「高校生活アンケート」を実施し，いじめ等の問題行動の未然防止や早期対応につなげる。 また，いじめに関するホームルーム等を実施し，いじめの起こらない学校作りに努める。	・いじめに関するアンケート調査　年３回実施 ・いじめに関する教職員研修　年１回以上実施 ・いじめ防止に関する生徒への啓発活動　年３回以上実施 ・いじめに関するＨＲ活動　年１回以上実施	生徒の行動等を毎日の登校時に観察し、気になる点があった場合は教職員全体で共有し、問題行動等の未然防止に努めた。いじめに関するアンケートも年3回実施し、いじめ認知件数は０件であった。	A				(保)問題があった場合に素早く対応をしてくれた。	来年度も引き続き実施し、早期発見に努める。
				iii	道徳心（より良く生きるための態度や能力）の育成を全教育活動の中に位置づけ，自尊感情や道徳的態度・実践力の向上を目指す。また，内容を見直した上でアンケートを実施し，全教職員で情報を共有することで，生徒の状況把握や授業の改善に生かす。	・自尊感情に関するアンケート　年２回実施 ・道徳に関するアンケート　年２回実施	自尊感情に関するアンケート・道徳的行動アンケートを年2回実施した。結果を分析するとともに，全教職員で情報共有し，生徒の状況把握や支援に活かした。	B				(評議)一人ひとりの生徒を大切にしているからである。	継続して実施し，生徒理解や適切な支援に活かす。
				iv	ゴミの分別の徹底，電気や水道使用量の調査活動を通して，省エネや環境保全に対する意識を向上させる。	・内部評価による実態調査 18点	各学期に中間報告を実施。ゴミの分別や電気水道使用量などに対する意識が向上し、取り組みがみられた	B					生徒一人一人の環境保全意識を向上させる必要がある
				i	体調管理や時間を守ること大切さについて説き，欠席や遅刻を減らすことを意識させる。	・体調管理・時間厳守に関する生徒への啓発活動　年５回以上実施	毎日登校指導を実施。昨年に比べ欠席・遅刻は少しだけ減少した。	B					
				ii	挨拶や言葉遣いについて繰り返し説明し，目上の人や社会に出たときのマナーを身につけさせる。	・挨拶・言葉遣い・マナーに関する生徒への啓発活動　年５回以上実施	全校集会や日常生活の中で気になれば指導を実施。もっと敬語が使えるようにしていく。	B					

		⑤	基本的生活習慣の確立	iii	保健だよりや食育だより等の発行や「健康力アップ３０日作戦」を実施することで，自身の課題に気づき，生活習慣を見直し実行していくことのできる生徒を育成する。	・生活実態調査の実施 ・保健だよりの発行 年１１回 ・食育だよりの発行 年３回 ・「健康力アップ３０日作戦」実施後のアンケートで「健康を意識した生活がしたい」肯定的回答割合　８０％以上	「保健だより」を年11回，「食育だより」を年3回発行した。生活実態調査の結果から生徒の健康課題に応じた情報や感染症対策について掲載し，配付時に全体指導を行った。「健康力アップ30日作戦」では「チャレンジ内容を達成できた」生徒は65％「今後も健康を意識した生活をしたい」と回答した生徒は95％であった。	B	B			健康課題に応じた啓発を続けることによって，自身の体に興味をもち行動に移すことのできる生徒を育成する。
				iv	薬物乱用防止教室を実施し，薬物の身体に及ぼす影響について正しい知識を生徒に提供することにより，薬物乱用の防止を図る。	・薬物乱用防止教室　年１回実施	薬物乱用防止教室を７月に実施。薬物乱用防止について理解できた。	A				実習を実施し、啓発活動に努める。
		⑥	特別支援教育の推進と教育相談体制の充実	i	週１回「脳トレの日」を設定し，みる力，きく力，見えないものを想像する力の基礎力を強化するトレーニングを全生徒対象に実施する。	・特別支援教育の視点を大切にし，生徒が不安感なく取り組めるように工夫する ・毎回の記録を保存し振り返ることで，意欲付けを行う ・課題量を限定し，ゲーム感覚で楽しみながら継続して取り組むことができるように工夫する	生徒の反応をみて生徒に合った課題を選択して実施した。ICTを活用し視覚的に説明したり，初めての課題は教員が一度見本を見せる等，不安感なく楽しく取り組めるよう工夫した。	B	B			認知トレーニングについては，すぐに効果があらわれるものではないため継続して実施したい。
				ii	教育相談週間の設定や，職員研修会を実施し，生徒の心の問題についての理解を深め，生徒の心の変化を見逃さず支援していくため，教師のカウンセリング能力の向上や校内連携体制を整える。	・教育相談週間　年３回実施 ・職員研修会　年１回実施 ・生徒アンケートで「先生はよく相談にのってくれる」肯定的回答割合　８０％以上	教育相談週間を学期に1回設定し，年3回実施した。「先生はよく相談にのってくれる」と回答した生徒は80％であった。	B				生徒・保護者が相談しやすい環境作りに努める。また生徒の内面理解を深めカウ
				iii	スクールカウンセラーによる個人面談や講演会を開催し，困難やストレスへの対処方法などを学ぶことで心の健康の保持増進を図る。	・新入生を対象とした個人面談の実施 ・メンタルヘルス講演会 年１回実施 ・相談だよりの発行　年１０回	新入生に対する個人面談や生徒対象の講演会を開催した。また相談だよりを年11回発行し，配付時には全体指導を行う事でスクールカウンセラーが生徒にとって身近な存在になっている。	A				スクールカウンセラーと連携し，心の健康の保持増進を図る。

令和２年度　徳島県立池田高等学校　定時制　学校評価総括表　２

「評価」及び「総合評価の評定」の基準　A：十分達成できた　　B：概ね達成できた　　C：達成できなかった

自己評価												学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		重点課題			２年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況	評価		総合評価		学校関係者の意見	
2	勤労精神を尊び，仕事と学業の両立を目指し，進路実現に向けて努力する生徒を育成する。		進路意識や勤労観の育成	i	担任による個別面接を実施し，生徒が進路について具体的･主体的に考え行動する姿勢を育てる。また，夏季休業中に三者面談を実施し進路に対する生徒･保護者の共通理解を図る。	・個別面談　年５回以上実施 ・三者面談（進学･就職）夏季休暇中の実施	適宜、全職員による個別面談を実施し、夏季休業中の三者面談もすべて実施した。保護者アンケートで、三者面談の満足度が100％だった。	B	B	B	①については，進路指導主事と担任が生徒・保護者の希望を聴きながら，個々の生徒の適正や能力を考えた支援ができた。進路実現に向けてきめ細かな進路指導の充実に努める。 ②については生徒に就労を奨励し，ハローワークとの連携を通してアルバイトを斡旋することができた。アルバイト就労率も高く勤労観の育成に繋がっている。 来年度も生徒の勤労観の育成を図りながらアルバイトを奨励していく。 ③については外部講師を2回にわたって招聘するなど工夫しながらマナー育成に努めた。資格取得については，難関のビジネス文書実務検定１級の合格者もいるが，もう少し合格率が上がるよう，時間をかけたり方法を考えたりして工夫したい。 ④については継続的にハローワークや企業訪問を行い，情報収集や信頼関係の構築に努めた。進路を決められない生徒がいたが地域のサポートステーション等と連携しながら，適性等を見きわめると共に，卒業後も継続して支援を受けられるよう橋渡しをした。また，進学希望の生徒に対しては小論文や面接の指導を教員全体で実施し，大学入試制度改革に対する対応も始めた。来年度も就労支援の充実に向けて地域の事業所との関係を深め，継続して必要な指導･支援を行う。		進路実現に向けてきめ細やかな進路指導の充実に努める。
				ii	進路ガイダンスや外部講師招聘により，進路に関する講演会を行い進路選択への意識を高める。ハローワーク学卒担当者や全日制の進路担当とも連携を図りながら計画的･組織的な進路指導を行う。	・進路ガイダンス及び進路に関するホームルーム活動　年２回以上実施 ・進学希望者にオープンキャンパスへの参加や職場体験させて確実な進路先決定に繋がる	進路ガイダンスや地域の事業所から外部講師を招聘した進路に関するＨＲ活動は年に計2回以上実施した。個別の職場見学を適宜実施し、進学を希望する生徒には情報提供を行い、オープンキャンパス等も参加させた。	B				生徒・保護者のニーズの把握に努め，個々の生徒の適正や能力を考慮した支援の充実を図る。
				iii	職場見学や就業体験を実施し，生徒に社会人・職業人としての立場を経験させ，働くことへの関心・意欲を高めるとともに，正しい職業観・勤労観を育てる。	・職場見学　年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「勤労意欲が高まった」肯定的回答割合　85％以上	職場見学が実施できなかったが，生徒アンケートでは「キャリア教育を通じて勤労意欲が高まった」と回答した生徒は90％であった。	B				生徒の実態に応じた職種や事業所の選定に努める。
			仕事と学業の両立	i	生徒一人ひとりに適した就労先（パート。アルバイトを含む）をハローワーク担当者と連携して職業体験を増やすことによって就労への正しい勤労観を育てる	・収録率７０パーセント以上	生徒の希望に沿って就労先を斡旋し、アルバイト就労率は75％であった。	B	B			(保)アルバイトをよく勧めてくれる。	生徒の勤労観の育成を図りながらアルバイトを奨励する。
				ii	午前中の空き時間を有効に活用することや，社会性を身につけるためにもアルバイトを奨励している。定期的に就労先と連絡を取りあい，仕事と学業の両立が出来るよう適切な支援を行う。	･学期１回程度　生徒のアルバイト先　訪問の実施	各学期に1回以上生徒のアルバイト先を訪問し、全職員で個別面接指導も実施し、勤務状況等の把握に努め、仕事と学業の両立の支援に繋げた。	B					アルバイトの離職率が高い生徒に個別の支援を行う。
			社会人として求められる能力や態度の育成	i	すべての教育活動を通して，社会的自立に必要なコミュニケーション能力や社会人としてのマナーの育成に努める。外部講師によるビジネスマナー教室等も実施する。	・ビジネスマナー講習会　２回程度実施 ・ハローワーク学卒担当者招聘　ホームルーム　１回　実施	全職員によるマナー指導の徹底と共に，外部講師によるビジネスマナー研修会を年２回実施した。ハローワークの学卒担当者を招聘したＨＲ活動も年1回実施した。	B	B				就労が定着するようハローワーク学卒担当と密に連携する。
				ii	商業･情報の授業の他に，総合的な学習の時間に，各種検定資格資格取得に向けての支援講座を設け，生徒が必要とする職業能力の養成を図る。	・ビジネス文書実務検定　合格率　６０％以上	ビジネス文書実務検定の合格者は分野別合格を含めて53％であった。1級合格者も1名でた。	A					合格率60％以上をめざしたより一層の指導の充実を図る。
				iii	総合的な学習（探究）の時間やホームルーム等では全学年合同の協働的な学習や体験的な活動を積極的に取り入れ，チームとして問題や課題を解決する能力と態度を養う。	・協働的・体験的な学習及び活動実施時数　各学期2回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「総合的な学習の時間は充実している」肯定的回答割合　85％以上	協働的な学習及び活動を各学期で平均3回実施し，生徒アンケートでも「総合的な学習の時間は充実している」肯定的回答割合が85％であった。	A					新型コロナウイルスへの対応を踏まえて活動を工夫する。
			進路希望の実現	i	ハローワーク･商工会議所など関係機関と連携を密にする。 特に県内企業の求人が少ないため，積極的に企業訪問し，開拓に努め，生徒に情報を提供する。	・生徒や保護者の要望に応じて，ハローワーク，企業，その他の関係機関への訪問を随時実施して連携を密にする。 ・保護者アンケート　肯定的回答割合　８０％以上。	ハローワーク，企業その他の関係機関への訪問を随時行い，連携を密に図った。保護者アンケートでは、就労支援の満足度が84％だった。	A	A			(保)就職に関するアドバイスをよくしてくれる。	就労支援の充実に向けて地域の事業所との関係を深める。
				ii	進学を希望する生徒に対して，全日制の進路指導課と連携しながら早期に情報を収集し，指導体制を整え対応する。	・進学情報を早期に収集し，生徒個々に必要な支援を行う。	進学情報の提供や入試対策課題，面接指導など，生徒個々に必要な指導・支援を行った。	B					継続して必要な指導・支援を行う。
				iii	就職試験や大学入試における面接や小論文の対策は担任を中心とした全教員があたり，生徒個々の状況に応える。	・全日制進路課と進学情報を共有し，全教師が指導にあたる。	全日制進路課と連携しながら、職員全体で生徒の進路に応じた試験対策や面接指導を適宜行った。	A					早期に情報を提供し進路決定に繋げる。

令和２年度　徳島県立池田高等学校　定時制　学校評価総括表　3

「評価」及び「総合評価の評定」の基準　A：十分達成できた　　B：概ね達成できた　　C：達成できなかった

自己評価												学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		重点課題			２年度活動計画	評価指標	評価指標の達成状況と活動計画の実施状況	評価		総合評価		学校関係者の意見	
3	生徒が主体的に地域社会と関わり，地域との結びつきを深める中で，地域とともに歩む学校づくりを進める。	①	本校教育活動の公開と普及	i	学燈祭や授業等を積極的に公開するとともに，地域における美術作品展及び学習展を開催し，地域社会からの本校教育活動に対する理解を深める。	・学燈祭及び本校学習展の来場者合計　140人以上 ・生徒対象学校評価アンケート「学燈祭が充実している」肯定的回答割合　85%以上	学校祭及び本校学習展のにおける把握できた来場者の合計は145人であり，評価指標を達成した。生徒アンケートの「学燈祭」満足度は95%だった。	A	B	B		美術作品の展示方法や広報活動，展示場所の改善を図る。
				ii	ホームページの更新を積極的に行い，最新の情報提供と内容のさらなる拡充に努める。また，学校紹介用の資料やスライド等を作成し，保護者や学校関係者への情報発信に繋げる。	・学校紹介用スライドの作成　年１回以上。 ・ホームページの更新　月平均3回以上	学校紹介用スライドを年１回作成した。ホームページの更新をタイムリーに月平均3回程度更新した。適宜確認しながら生徒の個人情報の保護に努めた。	B		①については県庁，三好病院，フレスポ等において作品展を開催し定時制の活動を多くの人に知ってもらうことができた。ホームページも素早く情報を提供することができた。来年度はより見やすく生徒の様子がより一層伝わるように工夫する。 ②については，地域の方々と連携しながら，地域の美化活動，防犯パトロール，被災地支援等の活動を実施できた。 ③については探究活動のテーマに即して，「自然環境」「防災」「エシカル消費」等の特別講義を行った後に，調査・まとめて発表会を実施した。学年が進むごとに，クイズを交えたり，ICT機器を活用するなど発表方法やスキルの向上が感じられた。主権者教育や消費者教育などでも専門家を呼んで講演会も実施した。今後もこれらの活動を通して社会人として必要な能力や資質の向上に努める。 ④については夜間の避難訓練に関する教育を実施した。「池定・地域まもり隊」として，地域防災に対する活動や被災地支援等も継続的に実施しており，その成果が認められ，令和２年度も「徳島県青少年健全育成賞」「徳島県まなぼうさい活動賞」の徳島県知事表彰を受け，また「徳島県藍青賞」の徳島県教育委員会表彰も受けた。		本校での取組が伝わるようスライドの作成を工夫する。HPにおいても活動の様子が伝わるよう改善を図る。
				iii	校誌「学燈」や「池定通信」を発行・配布し，本校の活動状況を保護者や関係機関に情報提供することにより，本校教育活動への関心を高め理解を深める。	・「学燈」の発行　年１回 ・「池定通信」の発行　毎学期１回 ・保護者や関係機関への配布　年１回以上	「池定通信」年3回、「学燈」年1回発行し、地域での様々な教育活動や学校での生徒の取り組みを発信できた。また、定時制振興会員への配布も行った。	B				より見やすく生徒の様子がより一層伝わるように工夫する。
		②	地域の人材・組織等との連携	i	美術作品制作の際に，地域の専門家を外部講師として招聘し，地域の教育力の活用を図る。	・地域の外部講師招聘　2名以上 ・徳島県高等学校定時制通信制教育連盟連美術作品展入賞　7作品以上	地域の芸術家を2名、外部講師として招聘し、美術作品の制作に取り組み、定通連美術作品展で5部門中4作品（4作品特選）が入賞した。	A	B			指導の充実の向け講師との事前の打ち合わせを入念に行う。
				ii	地域社会に関する課題を設定し講師を招聘して特別講義を実施し，郷土の伝統や文化，風土等に対する理解を深め，郷土愛を育てる。	・大学その他関係機関の外部講師招聘　3名以上 ・生徒対象学校評価アンケート「地域を知る学習に積極的に参加できた」肯定的回答割合　80%以上	大学その他関係機関の外部講師を計4名招聘し、地域に関する学習を実施した。生徒アンケートの「地域を知る学習」満足度は85%だった。	B				遠隔講座が充実するよう講師と打ち合わせを入念に行う。
				iii	地域の警察と連携した合同パトロールを実施し，交通安全や特殊詐欺防止等の啓発に努める。	・夜間防犯パトロール活動　年3回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「防犯パトロールに積極的に参加できた」肯定的回答割合　85%以上	夜間防犯パトロールを年2回しか実施できなかったが，生徒アンケートで防犯パトロールの活動意欲度は95%だった。	B				巡回コースを工夫してより広いエリアの防犯に繋げる。
		③	地域との関わりや結びつきを深める活動	i	地域等に関するテーマを各学年で設定し，課題研究を実施して研究発表会を開催するとともに，その成果を展示する。	・学習研究発表会　年1回以上 ・学習研究の成果の展示　年2回以上	全学年が個々の研究テーマを設定して探究活動を行い、学習研究発表会を年1回実施し、成果の展示も年2回実施した。	B	B			学習成果の展示方法や広報活動，展示場所の改善を図る。
				ii	「池定・地域まもり隊」の活動のさらなる活性化を図り，地域社会の安全等，住みよい町づくりに貢献するとともに，被災地等への支援や交流活動を行い，ボランティア精神の育成に繋げる。	・被災地等への支援･交流活動及び地域防災支援　年1回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「被災地支援活動に積極的に参加できた」肯定的回答割合　85%以上	被災地交流として東日本大震災の被災地に木の苗木を送る取り組みを年1回実施した。生徒アンケートでうちわづくりへの意欲度は95%だった。	B				広く様々な地域の支援に繋がるよう取組の改善を図る。
				iii	地域社会における清掃活動やリサイクル支援活動等を実施し，生徒の環境に対する意識や関心を高め，地域の環境美化及び環境保全に貢献するとに，地域社会の一員としての自覚と態度を育てる。	・地域の美化活動　年間３回以上実施 ・廃食用油リサイクル支援活動　年間１回以上実施 ・生徒対象学校評価アンケート「地域の清掃活動に積極的に参加できた」肯定的回答割合　85%以上	地域のゴミ拾い等の美化活動を年2回しか実施できなかったが、廃食用油リサイクル支援活動は年1回実施した。生徒アンケートで地域の清掃活動への意欲度は95%だった。	B			(評議)地域と共に活動しているところをよく目にした。	ゴミ拾いや廃油回収だけでなくゴミの削減に繋がるように活動の改善を図る。
				iv	主権者教育に関する講演会や学習活動等を実施し，生徒に主権者としての政治的教養を身に付けさせるとともに，他者と連携・協働しながら社会参画しようとする意欲と態度を育てる。	・主権者教育に関する学習及び講演会　年2回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「選挙や政治について関心が高まった」肯定的回答割合　85%以上	大学と連携した授業を含め、主権者教育に関する学習活動を年2回実施した。生徒アンケートで選挙や政治への関心度は80%だった。	B				成人年齢の引き下げに対応できるように指導の改善を図る。
		④	防災教育と救急処置体制の確立	i	全国瞬時警報システム（Ｊアラート）を活用した夜間避難訓練を実施し，生徒に災害発生時の行動様式を身に付けさせるとともに，防災・減災に関する知識や助け合いの精神を育てる。	・夜間避難訓練　年１回以上	Jアラートを活用した夜間避難訓練を年２回実施した。防災学習ホームルームも年２回実施した。生徒アンケートで防災への関心度は、95%だった。	A	A			次年度も実施し、啓発活動を進める。
				ii	全生徒・全教員に対し地元の消防署員によるＡＥＤを含む救急処置実技講習会」を実施するとともに，事故災害発生時の対応について教員間で共通理解を図る。	・ＡＥＤを含む救急処置実技講習会　年１回実施 ・ＡＥＤを含む救急処置ができる教員　90%以上	本年度は、新型コロナウィルス感染症の影響もあり、実施できなかった。	B				実習を実施し、啓発活動に努める。
				iii	防災に関する学習及び活動を実施し，自他の命を大切にするとともに，災害時に適切な意思決定や行動選択ができる生徒を育成する。	・防災教育に関する学習及び活動　年2回以上 ・生徒対象学校評価アンケート「防災に関する理解が深まった」肯定的回答割合85%以上	防災教育に関する学習を年２回実施した。生徒アンケートで防災への理解度は95%だった。災害用補助備蓄品の充実も図った。	A				防災･減災への意識の定着を図るための工夫を検討する。